

○○専務への弔辞

(社長より)

ここに社葬をもちまして、故○○○○君の葬儀を執り行うに当たり、社員一同になり代り、長年当社のために刻苦されたことへの謝意と、久しきご交誼に対する絶ちがたき惜別の意を述べさせていただきます。

実は、私が○○○○君の訃報を受けたのは、社用のためヨーロッパ旅行中であります。驚いて急速、予定を繰り上げ、帰国の途についたのであります。空路チユーリリツヒを発つて、白銀のアルプス連峰がくつきりと機窓に見えて来た時には、かつて○○○○君と共にこの風景を眺めたことが、さまざまと脳裏に浮かんで来て、ひとり涙を禁じ得ませんでした。

○○○○君は、語学力にすぐれ、洗練された国際人として、どこの国へ行つても、一流の紳士として遇される、品格の持主であります。さらにスポーツから、美術品のコレクションまで、その趣味の広さは、だれもが認めるところです。

思えば○○○○君とは、わが社がヨーロッパへ進出するための基礎作りに、ともに手を携えて、その苦労を分かちあつた仲間であります。

戦後日本の商社が海外へ雄飛する先鞭を、わが社が付け得たのも、○○○○君といいう人材あつてのことだといつても、けつして過言ではないでしょう。また、海外へ赴く後輩たちにとって、外国事情に詳しい○○○○君は、まことに頼もしいアドバイザーでもありました。

現在、日本の商社は国際的に、大変難しいところへたちいたつております。かかる折に、貴重な水先案内人をなくしてしまつたことは遺憾の極みであります。いかなる国情の差があるとしても、あくまで人間としての信頼関係に基づかなくてはならない、という○○君の信念を、どこまでも活かしていくように、後に続く人々にも認識を新たにしてもらつつもりであります。

平成○年○月○日

株式会社 ○○○○

取締役社長 ○○○○



東海典礼